



29 菅公梅を詠ずるの図 五姓田芳柳(二世)

明治二十四年(二八九二) 油彩・カンヴァス  
一一〇・〇×六八・七

本図は明治二十四年、第三回明治美術会展覧会に出品され、宮内省買上となったもの。童子を従えて梅林を歩く菅原道真が、筆をとって今まさに一句詠もうとするところを描いている。これは梅を愛すること知られる道真が九州太宰府へ向かう時に、都の自邸で「東風吹かば匂ひをこせよ梅の花 主なしとて春な忘れそ」と詠ったという有名な場面を描いているのである。道真や童子の顔は、この頃の二世芳柳の特徴である強めの陰影が付けられ、ややぎこちなさを感じられるが、それでも道

真の意志の強さを表す濃く太い眉毛や穏やかそうな黒目がちの瞳には、天神様と祀られるようになった歴史上の偉人を等身大の生身の人間として描こうとする、作者の努力がうかがえる。画面左下に入れられたサインは「H.Goseeda」。

二世芳柳は旧名倉持子之吉(一八六四～一九四三)、下総国猿島郡杵掛村(現在の茨城県坂東市)に生まれ、明治十一年に上京して、二年後に五姓田義松の弟子となる。また同年に義松の父初代芳柳の養嗣子となり、芳柳の次女と結婚する。義松が渡欧した後は、チャールズ・ワグマンやアッキレ・サン・ジヨバンニに絵の指導を受けた。その後、芳柳の号を受け継ぎ、二世芳柳として活動するようになる。明治二十二年には帰国した義松とともに、明治美術会を設立した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections